

開山榎庵白純大和尚二十三回忌厳修

育英生へ辞令伝達——横浜善光寺留学僧育英会

横浜善光寺留学僧育英会（黒田武志理事長）

の第十七回育英生に対する辞令伝達式が二月十日午後二時から、善光寺で挙行された。式典に先立ち善光寺開山榎庵白純大和尚の二十三回忌が厳修され、「仏教を通して世界平和に貢献したい」との願いで新寺建立を果たし、育英事業を継続している黒田理事長（善光寺住職）の師父・白純大和尚の遺徳を偲んだ。

同育英会は、黒田理事長が善光寺開創十五周年を記念し、「仏教興隆による世界平和を実現す

る人材づくり」を願って昭和五十九年一月にスタートさせた。これまでに延べ百二人にのぼる育英生を採用し、育英生の国籍や派遣先など関係国は世界二十カ国・一地域に及んでいる。

十七回目の今年は、立正大学法華経文化研究所で「大乘仏教の菩薩思想と上座部仏教の比較」について研究しているスリランカのエルワポラ・ニヤナラタナ氏（五十四歳）、愛知学院大学大学院の博士課程で学んでいるインドネシアのスダング・タント氏（僧名・スグノ、三十歳）、花園

大学院修士課程で臨済の禅思想を研究中の台湾人女性、鄭貴霞氏（六十七歳）の三人が採用された。（応募論文の要旨は後頁）

開山忌が埼玉県・能仁寺住職萩野映明老師の導師により出班焼香で営まれたのに引き続き、育英生の辞令伝達式が執り行われ、育英会理事の宮本延雄先生（鶴見大学事務局長）が選定経過を報告し、育英生三人の経歴等を紹介。黒田理事長の導師で読経の後、黒田理事長から育英生一人一人に辞令が伝達された。

この後、育英会理事の東隆眞先生（駒沢女子大学学長）と善光寺総代の中村治雄氏（防衛医科大学名誉教授）が白純大和尚を偲び、育英生への激励を込めて挨拶。東理事は、大本山總持寺に安居し首座寮の弁事だったころ、副監院の白純大和尚にかわいがってもらったことや、白純大和尚が四力寺を開山し、十数人の後継者を生み、二十数人の宗侶を育成したことなど話し、

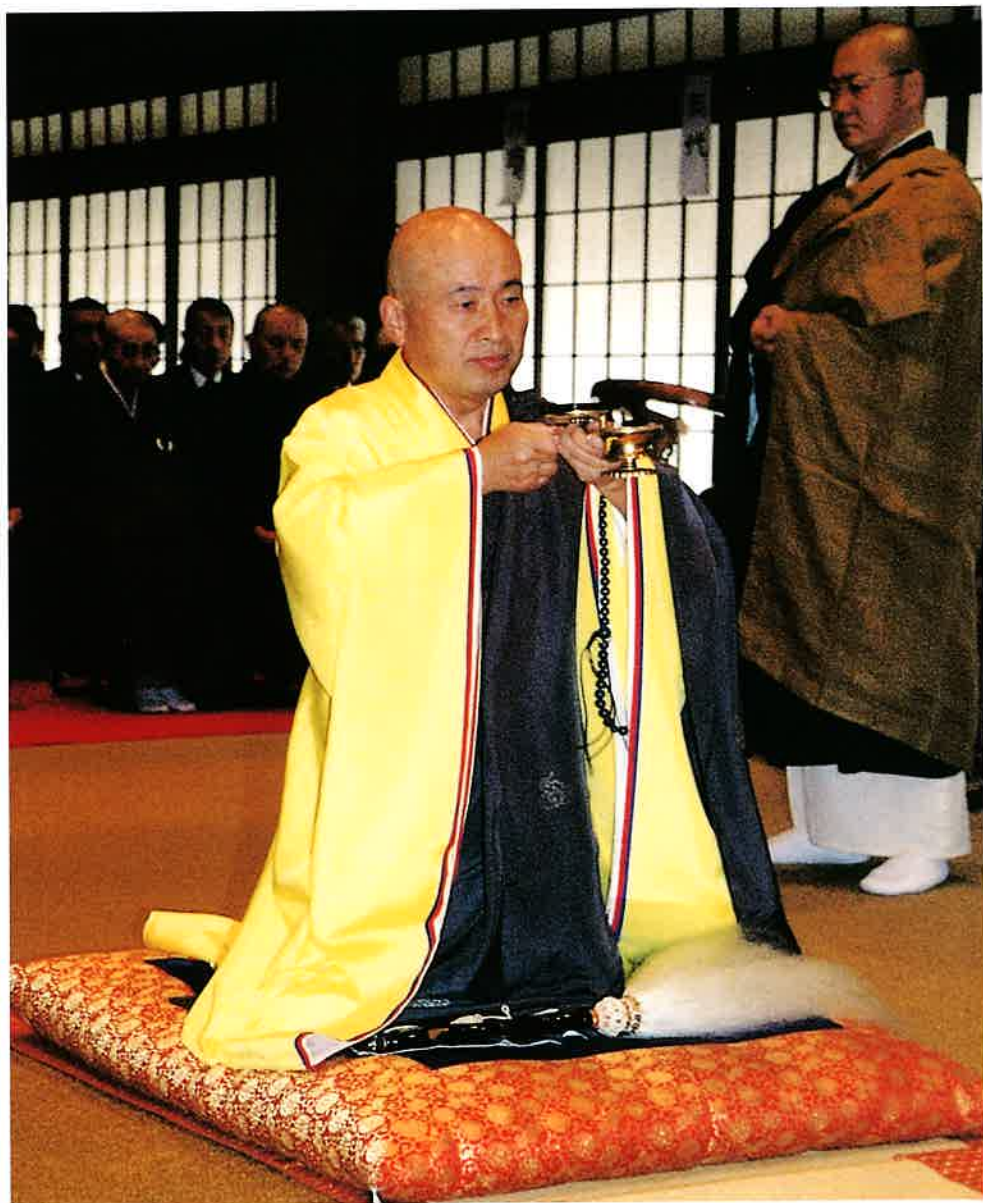
「日本の寺院仏教におけるこの偉業をどう評価すればいいのか」と道業を仰いだ。

また中村総代は、育英生に「皆さんは育英会のサポートを土台として発展していただきたい」と期待を述べるとともに白純大和尚を診察した折りに、嗣子を案じて「武志をよろしく」と病床で合掌した姿を思い出として話し、白純大和尚が師父として黒田理事長に深い愛情をかけていたことを披露した。

最後に本寺・光真寺（栃木県）の黒田俊雄住職は、全日本仏教会の事務総長として新宗教教団にも理解を示した白純大和尚の懐の深さを偲び、「念ずれば花開く」という言葉がある。一人でも多くの方が平和への祈りをもって、育英会をご支援くださるようお願いする」と述べ、謝辞とした。

善光寺開山 棟庵白純大和尚二十三回忌

平成13年2月10日



導師 萩野映明老師

香 語

善光寺開山楳庵白純大和尚二十三回忌

梅花的隆彩山門難晦真龍插草恩

香飯珍羞酬法澤芳蹤茲及影猶存

恭惟相值當寺開山楳庵白純大和尚

二十三回忌之辰

行持常潔身心夙敦崇敬先祖慈育兒孫

機鋒競及峭峻禪林繁茂

禪客如削玉堆胸懷春溫

曾歷任大本山總持寺副監院曹洞宗審事院長

全日本佛教會事務總長等要職恋旧恩

寒梅籬落春能早野雪櫺窓夜不昏

斯日屈請四來尊宿

令山僧隆一隆 以伸供養

更併修善光寺海外留學僧派遣第十七回育英生

辭令交付式報恩謝德徹本源

即今忝供底消息何以報恩

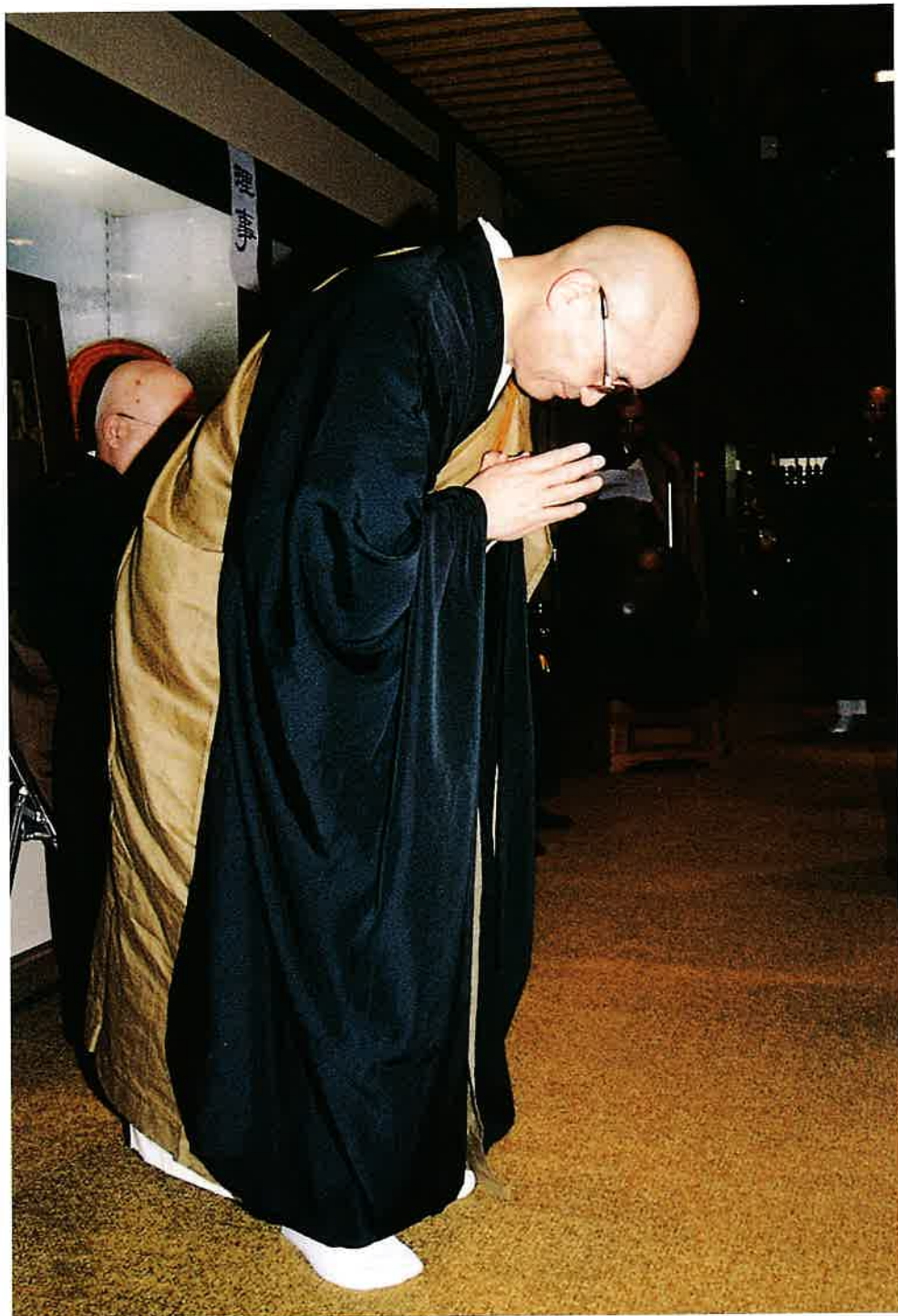
隆

鶯待晴光來柳柏

蝶隨春色到花園

能仁寺 三十一世 映明





深々と合掌低頭する善光寺黒田武志住職



光真寺三十六世中興棟庵白純大和尚（頂相）